

たるかいせんすごくろく 樽廻船双六

ねんいちど
年に一度
にしのみや
西宮から江戸へ
しんしゅ
新酒を運ぶレースが
ひらかれます。

西宮...
江戸時代から知られる銘酒の生産地。
幕末期には“宮水”と呼ばれる酒造りに
適した水が発見されました。



新酒番船(しんしゅばんせん)...
上方で生産された新酒を、樽廻船で西宮から江戸新川の
酒問屋まで運び込む速さを競った行事。
通常10日~2週間かかる距離を、平均6日で走り切ります。
寛政2年(1790年)には約57時間という記録があります。

うみあ
海が荒れると
すす
進めません。港で
てんきよ
天気が良くなるのを
まちます。



あか
赤い
はっぴを着て
ゆうしょう
優勝パレードを
します。

惣(総)一番...
新酒番船で優勝すること。
乗組員は赤いはっぴを着て、
太鼓を鳴らしながら新川付近
を練り歩きました。

ラスト
スパート!
2マス
すすむ



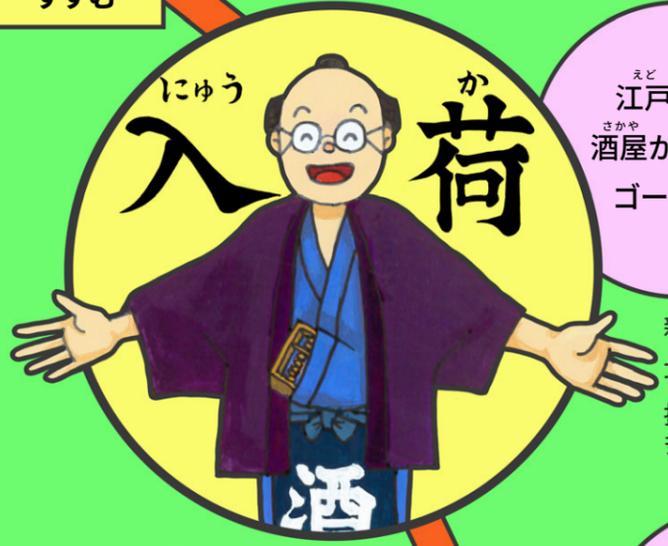
しゅっぱつしようめい
出発の証明を
う
受け取って、レース
スタートです。



さかたる
酒樽が
こわれた
“ふりだし”
にもどる

たいふう
台風にあう
“風待・潮待”
にもどって
1回やすみ

じゆんぷうまんぼん
順風満帆
6マス
すすむ



えどしんかわ
江戸新川の
さかや
酒屋がレースの
ゴールです。

新川...
上方から江戸へ積み
下された“下り酒”を
扱う卸業者(問屋)が
多く集まる地域。

にしのみや
西宮は
みやみず
“宮水”をつかった
おいしいお酒の
せいさんち
生産地です。

おうえん
応援を
うけて
“出発”まで
すすむ

さけほこ
お酒を運ぶ
ふね
船を“樽廻船”
とよびます。



しながわ
品川で
こがた
小型の船に荷物を
つ
積み替えます。

さかやへいてん
酒屋が閉店
1回
やすみ

えど
江戸には
おおく
多くの方が住んでいて
たくさんのお酒が
の
飲まれます。



樽廻船...
酒樽を輸送するための船。
腐りやすい酒を迅速・安全に運ぶため、
積荷を限定して、他の船と区別されました。
1800年代末には、全長31m、幅7.3m、深さ3mで、
一度に1600樽もの酒を運ぶことができる樽廻船がありました。

伝馬船(てんません)...
本船と陸岸との往来や
荷物の積み降ろしに使われた
小型の船。東京湾に面する品川は、
室町時代から江戸の外港として栄えた
良港で、ここから酒樽を伝馬船に積み替え、
隅田川をさかのぼって、新川の酒問屋を目指しました。

